



山土第 L0010-18 号
平成19年(2007年)5月 7日

国土交通省道路局長 様

山陽小野田市長 白 井 博 文



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について (回答)

記

平成19年(2007年)4月2日付、国道企第114号で依頼のありましたことについて、
別紙のとおり回答します。

■効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

道路などの公共事業は、事業計画の説明、測量及び地質調査、設計、工事用地の取得、工事、工事の完成等の段階があり、事業計画の説明から工事の完成までに長い期間を有する。早期に事業区間を整備し、効率化を徹底的に進めるためにも、道路特定財源のさらなる確保が必要である。

■道路政策や道路の整備・管理全般に関すること

1 道路整備

山陽小野田市内には、幅員の狭小な市道が多数存在しており、住民生活の安全・安心のため、地域住民からの道路整備の要望が多数あります。これらの住民ニーズに即応するためにも、道路特定財源の確保が必要である。

2 道路管理

老朽化した路面の打換え、路面の維持、道路植栽の維持、除草、清掃、橋梁の補修及び塗装、道路附属構造物の修理更新等に多額の維持管理費用を当市は投資しているため、道路特定財源の地方配分の見直しを要望する。

今後の道路政策や道路の整備・管理について

■重点化を進める上で特に優先度の高い政策

1 広域交通網の整備

山陽自動車道宇部下関線は、山口県宇部市東岐波を起点とし、山陽小野田市を經由して、下関市吉田で中国縦貫自動車道に連結する自動車専用道で、北九州方面へのアクセス道路として活用されているが、広島方面については、山口宇部有料道路と国道2号を利用して山口南ICに行くため、利用度が満足していると思われないので、何らかの交通ネットワークが必要である。

国道2号厚狭・埴生バイパスは、旧山陽町の市街地への大型車等の交通量の削減、それに伴う交通安全のため、事業を実施しているが、宇部市逢坂と山陽小野田市杣尻の間が未供用であり、従来どおり国道2号を通行する車があるため、国道2号と厚狭・埴生バイパスの合流部の交差点改良と併せて、早期の全線開通が必要である。

2 高速交通機関へのアクセス条件の向上

旧小野田市の臨海部にある工場群や商業施設と山陽自動車道小野田ICを結ぶ小野田湾岸線は、当市の根幹的な路線であり、工場の製品や商品の搬送の円滑的な流通及び地域間交流の促進を図るうえでも早期の完成が必要である。

3 交通渋滞の解消

国道190号及び県道小野田山陽線は、一部暫定2車線で供用開始しているため、4車線から暫定2車線に幅員が狭くなる部分において、朝夕のラッシュ時のみならず、昼間でも渋滞している状況である。また、県道小野田山陽線は旧小野田市と旧山陽町を結ぶ路線であり、市町村合併を実のあるものにするためにも、早期の完成が必要である。

4 安全・安心のための道路整備

県道妻崎開作小野田線の市街地にある区間は、近接の工場を出入りする大型車の経路になっているが、歩道のない状況である。また、市内には歩道のない道路が多数存在する。

高齢化社会を迎えて、交通弱者の安全・安心の確保のため、ユニバーサルデザインを考慮した道路整備が必要である。